

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホームハーモニー(1階)		
所在地	苫小牧市字植苗51-156		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0153680046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーはウトナイ湖や千歳空港まで約10分から20分程度の位置にあり、自然豊かな環境のもと、ホーム開設時から「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人の目指す「支え合って共に生きる」のケア実践と「心に寄り添い笑顔でサポート」をサービス提供の基本方針として日々利用者として接しております。また、個々のご利用者の体調や行動に合わせた寄り添いの姿勢で、安心した気持ちでお過ごしいただけるように努めております。日々の生活においては、思い思いの生活スタイルを尊重し、穏やかに生活ができるように心掛けております。、今年度はコロナ禍により自粛しておりますが、近隣のウトナイ湖や隣接する道の駅に出かけ四季折々の季節感を体感していただくように努め、近隣住民との茶話会や野外昼食会での交流や、小学生の定期訪問等、地域交流を大切に施設運営をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハーモニー」は、山間にある自然豊かで広大な敷地に今年度創立50年を迎えた「社会福祉法人緑星の里」が運営する2階建て2ユニットのグループホームである。理念である「支え合って共に生きる」ことが実践され、最後まで尊厳を大切に暮らすことができるよう支援している。法人内研修が充実しており、身体拘束や虐待防止の取り組みで職員が定期的にリストを記入し確認することで虐待防止に努めている。運営推進会議の議事録は全ての家族に送付し事業所内の現状を知らせるようになっている。また、積極的に苫小牧市に感染症対策等の相談や助言をもらい、事業所として危機管理を徹底する対応をとっている。感染症の流行で家族との面会の機会も少なくなっているが、家族への電話のサポートや玄関でのガラス越しの面会、さらにリモート面会ができる環境を構築するなど、可能な限りありのままの元気な姿を見てもらえるようサポートをしている。スキルの高い職員が多く、利用者の気持ちを大切に優しく話しかけ、思いに寄り添い希望を感じ取り日々のケアに活かしている。家族が安心して利用者が豊かな生活を送れるよう管理者と職員はより一層のケアサービスの質の向上を目指して日々研鑽を積んでいる。利用者の笑顔が何よりも安楽と感じ取れるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「支え合って共に生きる」を利用者のサービス提供場面で活かせるように、利用者、ご家族、職員一緒になって利用者の認知症と向き合った生活支援に努める。また毎朝「心に寄り添い笑顔でサポート」のサービス基本方針を唱和し一日の仕事を開始し質の良い支援に努めている。	事業所では理念をサービス提供の基本方針としており、毎朝唱和して各フロアの目につく場所にも掲示している。新人職員にも法人の研修で説明し、職員は日々理念を意識して「心に寄り添い笑顔でサポート」を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、法人のお祭りへの参加や地域の小学生との交流があるが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、交流することができていない。	感染症対策のため例年のように地域との付き合いができない状況にあるが、苫小牧看護専門学校の学生の実習を受け入れており、町内から事業所の敬老会にお祝いの手紙が届くなど交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、地域の小学生やボランティアに向けて認知症理解について発信しているが、今年度はコロナ禍により実現していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議の参加者を市と地域包括支援センターに限定し、短時間開催で行っている。	今年度運営推進会議は4回開催し、次回2月と3月に予定をしている。参加人員の縮小をしなければならない状況下であっても苫小牧市介護福祉課や地域包括支援センター、事業所職員で開催し、参加できなかった人には議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市と地域包括支援センターに対し事業所の実情や取り組みについて発信し協力関係を築くことに取り組んでいる。	事業所から苫小牧市に積極的に問い合わせや相談をしている。感染症対策について他の事業所の取り組み状況や集団感染が発生した場合に、どのように終息させるか等の相談で協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針を定め、身体拘束について定期的に確認している。また、身体拘束について勉強会を定期的に開催している。	事業所では「身体拘束適正化に関する指針」の中にある身体拘束の禁止の対象となる具体的な項目の勉強会も含めた会議を年4回開催し、その中で研修会も行っている。会議は日を変えて全職員が参加できるよう分散して開催している。玄関は夜間のみ防犯目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会があり、定期的に職員が虐待防止リストを記入し、虐待防止施設部会内で確認することで虐待防止に努めている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会がある。特に管理者は、新規利用者や退所等の調整等の事例において権利擁護の知識を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍により電話等での説明がふえており、対面の時以上に丁寧に説明することを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は介護計画の見直しの際、電話で聞き取っている。リモート面会やドア越しの面会ができることを家族には伝えている。	法人のホームページや広報誌でユニットごとの利用者の写真が確認できる。プランの変更時に支援の希望や要望を家族に確認するほか、運営推進会議の案内文でも事前に意見を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見についてユニット会議等で反映している。その他、人事考課の面接も行っている。	職員の意見は毎月のユニット会議や日々の介護、事業所内の役割分担で話を聞きながら運営に反映している。行事に対しても職員のアイデアで利用者者に喜ばれている。	ユニットにより職員不足があるため事業所内の職員体制を見直す予定であり、その取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長や介護課長が中心となって職場環境の整備に取り組んでいる。整備に当たっては職員の意見を反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催、外部研修を受講する仕組みがあるが、コロナ禍により集合型研修は実施せず、Zoom等によるリモートでの研修のみとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍により同業者と交流する機会は自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学時、ご家族様に対し質問や分からない点等々の不安を取り除くため、居室室内時の利用者の生活ぶりを丁寧に説明している。またご本人の戸惑いに対しても「寄り添いの介護」を基本にしている。また帰宅願望者へはご家族に電話対応をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前ご家族様の不安を抱えている点を積極的に聞き入れ、ホームでの安心・安全の施設運営を理解して頂いている。特にホームから次の施設への方向性を気にされているご家族様が多く、法人内の介護関連施設へ切れ目のない移動を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所間際の利用者に対し、ご家族様とは密に連絡を入れ、状況変化の情報提供や相談をしている。対応を変える時も細かく打ち合わせして合意をしたのち実行している。また医療機関との連携や必要により他施設への紹介をし切れ目の無い支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に「何かお手伝いができないか」の視点に立ち、無理強いくことなく自発的に継続できるお手伝いを提供し参加して頂いている。ご本人のやりがいを極力引出す努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会等が制限されていることから、電話でのやり取りを通じて、家族も本人を共に支えるチームであることを意識して関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入所時にご家族の写真や使い慣れた整理タンスを持ち込むことをお願いしている。本来であればご家族や知人の訪問をお願いするなどしているが、コロナ禍により自粛している。	感染症予防対策として例年のように事業所外との往来が規制され、知人友人の訪問や家族に会う機会が限られているが、電話の支援や事業所で買い物代行をするなど関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係性を配慮しながら食席の位置、外出メンバー構成にも配慮しながら利用者間の関わりに努めている。できる役割をお願いし、一人ひとりに役割ができるよう努めている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて、移動先と連携するなど相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人ご家族の情報のもと日ごろの思い出をくみ取る努力をしている。お誕生会の食事もご本人の好みで決めるようにしている。	サービス担当者会議やカンファレンスで話し合い、生活暮らしのアセスメントシートを活用し、前回の評価以降フェイスシートを3か月ごとに作成して思いや意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等を理解した上で、ご本人と話すことを配慮している。入所前後の環境変化の戸惑いをあせらず寄り添いの姿勢で優しく対応するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランと連動し、日常の生活ぶりや変化を担当職員と介護計画作成者、ご家族も交えケアプランに反映。又は情報収集し、利用者の現状把握とその対応に努る。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と介護計画作成担当者を中心に評価、モニタリングをし、ご家族と確認しながらケアプランに反映実施している。ケア会議時に全員のケアプランの確認と状況把握し、日常の生活支援に反映している。	3利用者や家族の意向を取り入れ3か月ごとに介護計画を更新し、アセスメントシートやプランを確認しながら作成している。介護目標に対応する支援内容は介護現場で活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画作成者と利用者担当職員が中心となり、日々の生活ぶりや体調の変化も観察し、他の職員やご家族の希望等の情報も得ながら利用者の生活支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設と連携を図り、医療、リハビリ、習字の習いものについてオープン化を図り、利用者のサービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出自粛となっているため、法人敷地内の散歩を行っている。敷地内に売店があり買い物ができる環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人全体で訪問歯科診療(週1回)と精神科医による回診(月2回)があり、ご本人やご家族から喜ばれている。また主治医を中心に医療連携を図っており、ご家族の希望や医師の指示で他の専門病院への紹介を受けている。	他科受診は原則家族対応であるが、事業所でも受診支援をしている。夜間の急変時でも法人のケアセンターの看護師に指示や応援をしてもらい適切な受診につなげている。	

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内での看護師配置はないが、隣接の施設から夜間帯の緊急対応(転倒・裂傷)や健康上の適切なアドバイスを受け、常駐看護師同様の体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要によりご家族の承諾を得て、主治医を変更して通院、入退院の連携を図っている。 入院時はサマリーを提出して日常生活の様子にも連携をはかり、医療機関との良好な関係に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時将来的な施設の方向性の確認をさせて頂いている。病状の変化と生活レベル低下に伴い、適切な施設移動や医療機関への移動をご家族と相談させて頂き、利用者の負担にならないようご家族と相談させてもらっている。	重度化した場合の対応は法人の支援体制を利用開始前に説明している。家族、医師、事業所が相談し本人や家族の意向を確認して適切に病院や他施設、希望があれば法人内の介護老人保健施設や特別養護老人ホームに入居できるよう話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的な急変は隣接看護師に依頼し、適切な指示で救急搬送も含めて対応している。また法人研修に人命救急の講習会も開催されており、順次参加してもらうように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人総合防災訓練の参加。また一階、二階職員の避難誘導機能が違うことから、各階の個別性を重視した避難訓練を実施している。	今年度は水害の訓練、日中帯の火災訓練をしており3月に地震を想定した訓練を予定している。感染発生時対策計画書を準備しており、非常時の備蓄品も揃えている。非常電源の確保のため申請中であるが進行状況は確認できていない。	非常電源の確保のため申請状況の確認と、災害時における感染症予防を含めた対策を検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけは「さん」づけを徹底している。個人情報書類は事務所内で保管することとしている。	法人の内部研修に参加し接遇等について学んでいる。眠れない方へなど支援別での声かけも留意している。個人記録類は保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会での主食希望の取入れや日ごろの「寄り添い」から希望や思いを職員がくみ取り、ケアプランに極力反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など一日のおおまかな時間はありますが、利用者一人ひとりのペースを大切に柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に利用者の身だしなみに配慮し清潔感を保つように努めている。またご家族様了解を頂き、季節感のある衣類の購入も対応している。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブルふきなど利用者と職員と一緒に準備や片づけをすることを大切にしている。	献立は外注であるが法人管理栄養士が調整し事業所で調理している。敬老会や利用者の誕生日、歓迎会での祝い膳や季節の行事食が提供されている。個々の禁食には代替えの食材で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックの実施、とれていないときは好物への代替え等の食材や飲み物を考えてトロミを使用しての提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯使用の方は毎食後、洗浄を実施している。また訪問歯科診療もあり、適切なアドバイスと必要により入歯調整をし、かみ合わせの調整をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や排泄パターンを活かし、トイレ誘導している。利用者の自尊心を損なわないように排泄支援を実施している。極力布パンツを使用して頂き、ご本人の意向を尊重した対応を心掛けている	生活暮らしのアセスメントシートにその都度排泄状況を記録し温度版へ転記して全体像を把握している。個々の排泄パターンを把握して適宜トイレ誘導を行っている。状態によりポータブルトイレの使用も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しやヨーグルト、乳製品など摂取内容に工夫をこらして対応している。また朝の体操の良さを伝えて参加してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて入浴促しをしている。また利用者には希望入浴順番、湯加減の好み等も確認し希望に沿った形で対応をしている。	特に曜日の取り決めはなく午後の時間帯で入浴を設定している。車椅子使用の方はシャワーチェアを用いるなど安全面に配慮している。入浴剤を使い色や香りを楽しんだり職員との会話が弾むひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、ホールと自室間の出入りは束縛せず自由にベッドで横になったり、くつろいでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を確認しながら投薬支援を実施している。また状況変化を職員が把握し、必要に応じ医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブルふき、おしぼりや洗濯物をたたむなど利用者一人ひとりに役割ができるよう心掛けている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、法人敷地内の散歩や売店利用に限り実施した。	感染症の流行により外出制限が行われているが、自然環境豊かで広大な敷地内の散歩や売店でパンや菓子類の購入の支援が行われている。例年はウトナイ湖で野鳥を見に行くなどのドライブや法人の祭典、隣接の事業所行事に参加するなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため、お金を使う場面は法人敷地内の売店利用やヤクルトの訪問販売に限られた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎやご家族にかけたりする補助の実施。手紙の代筆や代読を必要にしている。ご本人の依頼により電話をかけご家族とのコミュニケーション維持に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある装飾に配慮している。また採光の当たるところにソファを置き、心地よい日向を肌で感じて頂いている。また自然さを活かし、玄関にもソファを置き木々のゆらりを感じて頂き精神安定に繋げている。食卓テーブルはその場面場面で配置換えを実施し、空間演出に努めています。	玄関はガラス戸仕様で開放感があり、季節ごとの飾り付けや絵画、ゆったりとした椅子が置かれている。共用空間の居間はダイニングとソファコーナーがあり、大きな窓からの眺めもよく明るい造りである。感染症対策で食卓にはアクリル板を設置している。エアコンや加湿器、サーキュレーターで空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、テラスに椅子やソファを置き、食堂ホール以外でも一人になれる空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた整理タンスやご家族の写真の持ち込み等は積極的にお願いし生活環境の変化を極力防いでいる。	居室には洗面台、介護用ベッド、防災カーテンが備えられ、馴染みの家具や調度品、愛着のあるものを持ち込んでいる。ベッドの向きなど本人や家族の意向に沿う設えや趣味の編み物、携帯電話で家族と通信をするなど、落ち着ける居室環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入口には場所が分かるように利用者のお名前や目印を表示し混乱を防いでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホームハーモニー(2階)		
所在地	苫小牧市字植苗51-156		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0153680046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーはウトナイ湖や千歳空港まで約10分から20分程度の位置にあり、自然豊かな環境のもと、ホーム開設時から「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人の目指す「支え合って共に生きる」のケア実践と「心に寄り添い笑顔でサポート」をサービス提供の基本方針として日々利用者として接しております。また、個々のご利用者の体調や行動に合わせた寄り添いの姿勢で、安心した気持ちでお過ごしいただけるように努めております。日々の生活においては、思い思いの生活スタイルを尊重し、穏やかに生活ができるように心掛けております。今年度はコロナ禍により自粛しておりますが、近隣のウトナイ湖や隣接する道の駅に出かけ四季折々の季節感を体感していただくように努め、近隣住民との茶話会や野外昼食会での交流や、小学生の定期訪問等、地域交流を大切に施設運営をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「支え合って共に生きる」を利用者のサービス提供場面で活かせるように、利用者、ご家族、職員一緒になって利用者の認知症と向き合った生活支援に努める。また毎朝「心に寄り添い笑顔でサポート」のサービス基本方針を唱和し一日の仕事を開始し質の良い支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、法人のお祭りへの参加や地域の小学生との交流があるが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、交流することができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、地域の小学生やボランティアに向けて認知症理解について発信しているが、今年度はコロナ禍により実現していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議の参加者を市と地域包括支援センターに限定し、短時間開催で行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市と地域包括支援センターに対し事業所の実情や取り組みについて発信し協力関係を築くことに取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針を定め、身体拘束について定期的に確認している。また、身体拘束について勉強会を定期的に開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会があり、定期的に職員が虐待防止リストを記入し、虐待防止施設部会内で確認することで虐待防止に努めている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会がある。特に管理者は、新規利用者や退所等の調整等の事例において権利擁護の知識を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍により電話等での説明がふえており、対面の時以上に丁寧に説明することを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は介護計画の見直しの際、電話で聞き取っている。リモート面会やドア越しの面会ができることを家族には伝えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見についてユニット会議等で反映している。その他、人事考課の面接も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長や介護課長が中心となって職場環境の整備に取り組んでいる。整備に当たっては職員の意見を反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催、外部研修を受講する仕組みがあるが、コロナ禍により集合型研修は実施せず、Zoom等によるリモートでの研修のみとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍により同業者と交流する機会は自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学時、ご家族様に対し質問や分からない点等々の不安を取り除くため、居室室内時の利用者の生活ぶりを丁寧に説明している。またご本人の戸惑いに対しても「寄り添いの介護」を基本にしている。また帰宅願望者へはご家族に電話対応をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前ご家族様の不安を抱えている点を積極的に聞き入れ、ホームでの安心・安全の施設運営を理解して頂いている。特にホームから次の施設への方向性を気にされているご家族様が多く、法人内の介護関連施設へ切れ目のない移動を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所間際の利用者に対し、ご家族様とは密に連絡を入れ、状況変化の情報提供や相談をしている。対応を変える時も細かく打ち合わせして合意をしたのち実行している。また医療機関との連携や必要により他施設への紹介をし切れ目の無い支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に「何かお手伝いができないか」の視点に立ち、無理強いくことなく自発的に継続できるお手伝いを提供し参加して頂いている。ご本人のやりがいを極力引出す努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会等が制限されていることから、電話でのやり取りを通じて、家族も本人を共に支えるチームであることを意識して関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入所時にご家族の写真や使い慣れた整理タンスを持ち込むことをお願いしている。本来であればご家族や知人の訪問をお願いするなどしているが、コロナ禍により自粛している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を配慮しながら食席の位置、外出メンバー構成にも配慮しながら利用者間の関わりに努めている。できる役割をお願いし、一人ひとりに役割ができるよう努めている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて、移動先と連携するなど相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人ご家族の情報のもと日ごろの思い出をくみ取る努力をしている。お誕生会の食事もご本人の好みで決めるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等を理解した上で、ご本人と話すことを配慮している。入所前後の環境変化の戸惑いをあせらず寄り添いの姿勢で優しく対応するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランと連動し、日常の生活ぶりや変化を担当職員と介護計画作成者、ご家族も交えケアプランに反映。又は情報収集し、利用者の現状把握とその対応に努る。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と介護計画作成担当者を中心に評価、モニタリングをし、ご家族と確認しながらケアプランに反映実施している。ケア会議時に全員のケアプランの確認と状況把握し、日常の生活支援に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画作成者と利用者担当職員が中心となり、日々の生活ぶりや体調の変化も観察し、他の職員やご家族の希望等の情報も得ながら利用者の生活支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設と連携を図り、医療、リハビリ、習字の習いものについてオープン化を図り、利用者のサービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出自粛となっているため、法人敷地内の散歩を行っている。敷地内に売店があり買い物ができる環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人全体で訪問歯科診療(週1回)と精神科医による回診(月2回)があり、ご本人やご家族から喜ばれている。また主治医を中心に医療連携を図っており、ご家族の希望や医師の指示で他の専門病院への紹介を受けている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内での看護師配置はないが、隣接の施設から夜間帯の緊急対応(転倒・裂傷)や健康上の適切なアドバイスを受け、常駐看護師同様の体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要によりご家族の承諾を得て、主治医を変更して通院、入退院の連携を図っている。 入院時はサマリーを提出して日常生活の様子にも連携をはかり、医療機関との良好な関係に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時将来的な施設の方向性の確認をさせて頂いている。病状の変化と生活レベル低下に伴い、適切な施設移動や医療機関への移動をご家族と相談させて頂き、利用者の負担にならないようご家族と相談させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的な急変は隣接看護師に依頼し、適切な指示で救急搬送も含めて対応している。また法人研修に人命救急の講習会も開催されており、順次参加してもらうように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人総合防災訓練の参加。また一階、二階職員の避難誘導機能が違うことから、各階の個別性を重視した避難訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけは「さん」づけを徹底している。個人情報書類は事務所内で保管することとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会での主食希望の取入れや日ごろの「寄り添い」から希望や思いを職員がくみ取り、ケアプランに極力反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など一日のおおまかな時間はあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に利用者の身だしなみに配慮し清潔感を保つように努めている。またご家族様了解を頂き、季節感のある衣類の購入も対応している。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブルふきなど利用者と職員が一緒に準備や片付けをすることを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックの実施、とれていないときは好物への代替え等の食材や飲み物を考えてトロミを使用しての提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯使用の方は毎食後、洗浄を実施している。また訪問歯科診療もあり、適切なアドバイスと必要により入歯調整をし、かみ合わせの調整をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や排泄パターンを活かし、トイレ誘導している。利用者の自尊心を損なわないように排泄支援を実施している。極力布パンツを使用して頂き、ご本人の意向を尊重した対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しやヨーグルト、乳製品など摂取内容に工夫をこらして対応している。また朝の体操の良さを伝えて参加してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて入浴促しをしている。また利用者には希望入浴順番、湯加減の好み等も確認し希望に沿った形で対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、ホールと自室間の出入りは束縛せず自由にベッドで横になったり、くつろいでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を確認しながら投薬支援を実施している。また状況変化を職員が把握し、必要に応じ医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブルふき、おしぼりや洗濯物をたたむなど利用者一人ひとりに役割ができるよう心掛けている。		

グループホームハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、法人敷地内の散歩や売店利用に限り実施した。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため、お金を使う場面は法人敷地内の売店利用やヤクルトの訪問販売に限られた。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎやご家族にかけたりする補助の実施。手紙の代筆や代読を必要にしている。ご本人の依頼により電話をかけご家族とのコミュニケーション維持に努めている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある装飾に配慮している。また採光の当たるところにソファを置き、心地よい日向を肌で感じて頂いている。また自然さを活かし、玄関にもソファを置き木々のゆらりを感じて頂き精神安定に繋げている。食卓テーブルはその場面場面で配置換えを実施し、空間演出に努めています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、テラスに椅子やソファを置き、食堂ホール以外でも一人になれる空間づくりに努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた整理タンスやご家族の写真の持ち込み等は積極的にお願しいし生活環境の変化を極力防いでいる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入口には場所が分かるように利用者のお名前や目印を表示し混乱を防いでいる。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ハーモニー

作成日: 令和 3年 2月 12日

市町村受理日: 令和 3年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 ・訓練の実施、BCPIは整備されているが、非常電源設備の確保が進んでいない。	①非常電源設備の整備を行う	①法人における整備計画を確認する ②法人整備計画に準拠し整備を進める	①1か月
2	11	○運営に関する職員意見の反映 ・運営に関し職員意見を反映するよう取り組んでいるが、退職等により業務が煩雑となっており、意見交換の時間が思うように取れていない。	①職員との意見交換時間の確保	①法人内で調整を図り、4/1を目安に職員を充足する ②職員との意見交換を実施する	①2か月 ②5か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。